2019年11月1日発行・発売（奇数月1回1日発行・発売）第22巻 第6号 通巻227号

only Mercedes

オンリーメルセデス

12月号特別付録
オリジナルDVD
ドリキン
サーキットインプレ
at 富士スピードウェイ

Auto Messe Web
https://www.automesseweb.jp
vol.194
Dec
2019
12

最強のクールビューティ メルセデス・クーペ

Coupe Fantastic!

- ドリキンが史上最強の4ドアクーペ・メルセデスAMG GT 63 S 4MATIC+をテスト!
- 伝統のC/E/Sクーペラインアップ揃い踏み 3兄弟クーペの魅力を掘り下げる
- 魅惑のコンパクト4ドアクーペ新型CLA登場
- パナメリカーナグリルで 最新のAMG GTクーペカスタム
- ワイドフェンダーC63、22インチを履くSクラスetc. 魅惑のカスタムクーペ登場

フランクフルトショー速報
vision EQS登場

メルセデス・ベンツ待望のEV
EQCロードインプレッション

NEW COMER
GLC/AMG A35/E200（BSG搭載モデル）

AOYAMA PIT-IN

AMG GT S Edition1

AMG GTクーペを後期型にアップデート

メルセデス・ベンツのクーペモデルの頂点に立つAMG GTシリーズ。スーパーカーカスタムの定番はホイール&ボディラッピングが相場だが、メルセデスカスタムにはアップデートという醍醐味が待っていた!

OWNER:（株）PLANEX CEO福嶋祐輔サン
㊡青山ピットイン ☎03-3402-7515 www.aoyama-pitin.co.jp
PHOTO:渡部祥勝

AMGクーペモデルは
パナメリカーナグリルの一撃!

後期型にアップデートで迫力をさらに上書き

やはりメルセデスのクーペモデルはカッコいいのだ。インポートブランドにクーペモデルが根付いているのは、憧憬するに値する価値観の伝承が長い歴史の中で培われているからに他ならない。最も歴史の長いブランドはもちろんメルセデス。そのクーペモデルの頂点に立つのがメルセデスAMG GTクーペだ。日本のモータースポーツで最も人気の高いスーパーGTで勝利を重ねているメルセデスAMG GT3の市販デチューンモデルといえば、そのスペックの高さは理解してもらえるだろう。ロングノーズ&ショートデッキの伝統的クーペシルエットでワイド&ローに構えたスタイリングは、メルセデスファンの憧れでもある。

青山ピットインが手掛けたこのユーザーカーGTは初期型。それをオーナー氏の希望で後期型に変更した。気分転換でということらしいが結果、スタイリッシュなクーペGTに迫力を上書きすることに成功したのではないだろうか。視覚的にも後期型バンパーのほうが大きく見えるのだ。つまりボディから受ける圧力感が高まったということだ。青山ピットインのスタッフも「GTは後期型」というフォーマットはありだ、という。そしてパナメリカーナグリル。もはやメルセデスカスタムで欠かせないフェイスメイクパーツは、振り返ってみればこのGTからその歴史を切り拓いた。クーペ+パナメリカーナグリルはカッコいいのだ。

SPEC
エクステリア
Fバンパー&Fグリル:後期型
Sステップ&Rバンパー&Rウイング:エディション1
ホイール:ハイパーフォージドHF-C7（F:20インチ／R:21インチ）
タイヤ:ミシュラン・スーパースポーツ（F:265/30／R:325/25）
キャリパーペイント
チューニング
サスペンション:H&R
ワンオフ・エキゾースト
サブコン

















「GTの後期型はアリだと思う」と青山ピットイン本多店長は言う。アグレッシブなエアダクトを備えたFバンパー+パーティカルフィングリルで「今っぽい」ルックスに仕上がる。ワンオフエキゾーストが奏でるR風エキゾーストも迫力十分だった

bond plus AMG S63 Coupe

威風堂々とした優雅さが決め手!

贅沢な2ドアクーペならではの持って生まれた華やかさをセンス良く引き上げた1台。
セダンに比べれば便利とは言い難いが、スタイリングのためならなんのその。やせ我慢の美学がここにある!

㈱ボンドプラス　☎048-856-0123　www.hosokawa.co.jp
TEXT：増田嘉志　PHOTO：犬塚直樹

気品があるのでどこへも気兼ねなく乗りつけられる

厳ついフロントフェイスと流麗なボディラインがおりなすアダルトな雰囲気がこのクルマの魅力だ。手数は驚くほど少ないものの、インパクトが弾け飛ぶ。徹底的に素性の良さを活かせたからだろう。

仕立て上げたのはボンドプラスの關口マネージャーで、オーナーとのディスカッションを経てどんな風にするかを決めていった。

「オーナーは当初、白黒ツートンでいきたいと言っていましたが、それだとありきたりになってしまうので、まずは施されている部分の多いメッキを活かすアプローチを提案したんです。オーナーも納得してくれて、スポーティさよりもゴージャスさを重視してまとめてみました」

要となるのは何と言ってもホイールだ。デザインもさることながら、配色を重視している。マットな仕上がりのディスクに対して、あえてアウターリムとピアスボルトは輝かせてメリハリをつける。こうすることでスポークの凝った形状が映えるばかりでなく、メッキで装飾された光沢のあるボディとのマッチングを華やかに演出、その加減が絶妙なのだ。

取って付けたような違和感を排除することを最優先にコーディネートされたフォルムは、普段使いばかりでなく冠婚葬祭にも気兼ねなく乗りつけられる気品も持ち合わせている。

とはいえセダンと比べればドアの数が少なく、しかも長くて大きいので使いやすくはない。しかし、得られる満足感は計り知れないものがある。セダンベースではこれほどの艶やかさは表現できないだろう。

「この仕様にしたのが2年前。そろそろオーナーはイメチェンを考えています。今度はガンメタかブロンズを使ってメッキ部分をなくす作戦。それと後期仕様への変更ですね。こっちは見た目だけだなら簡単ですが、ライト類を点灯させるコーディングのノウハウを得るのが厄介なんです」

オーナーと關口マネージャーとのコンビは、さらなるステップアップのためにすでに動き出している。



SPEC
ゴッドハンド・フロントリップスポイラー
オリジナル・リアスポイラー
ハイパーフォージドLC5（F:9.5×22+30 R:11×22+34）
ピレリP-ゼロ・ネロGT（F:255/30:R:295/25）
iiDロアリングキット
iiD・EBM（エキゾースト・バイパスバルブ・モジュール）

持って生まれたゴージャスさを際立たせる



必要以上には主張していないものの、ノーマルにはない特徴な存在感を醸し出しているフロントリップ。両サイドのコーナー部分の形状が純正のサイドステップのデザインと上手くバランスが取れていて、一体感が強調される





ディスク面はスタンダードブラッシュドにマットクリア仕上げ。アウターリムはハイポリッシュでインナーリムがツヤなしのブラッシュドアナダイズド。そしてピアスボルトはクロームだ



トランクにはさり気なくスポイラーがセットされている。アピール度はとっても控えめながら、あるとないとでは雰囲気は大きく変わる

HYPER FORGED

S213 E-class Station wagon

S213にジャスト 21インチの誘惑

メイドインジャパンのオーダーメイド鍛造として人気を誇るハイパーフォージドの最新モデル。
王道を行くのであれば20インチがお約束だが、実はEクラスなら21まで、イケる。

㈱ハイパーフォージド　☎072-256-6664　www.hyperforgedwheels.com/
PHOTO:伊勢馬場建次　TEXT:酒井賢次





クルマとしての完成度の高さにも注目。前後にピーチャのスポイラーを装着し、AMGのディフューザーやテールパイプなどで要所を締める。H&Rのスプリングで高品位なロワードフォルムも獲得。ベースは220d



装着モデルはディスクがブラッシュド・アナダイズド・ブラックで、アウターリムはチタニウムを効かせて変化を。サイズ感も絶妙だ

SPEC
エクステリア
フロントスポイラー+フリックス:PIECHA RS-R
リアスポイラー:PIECHA RS-R
リアディフューザー:AMG
リアテールパイプ:AMG
タイヤ&ホイール
ホイール:HYPER FORGED・HF-DiC
ディスクフィニッシュ:
ブラッシュド・アナダイズド・ブラック
リムアウターフィニッシュ:
ブラッシュド・アナダイズド・チタニウム
リムインナーフィニッシュ:アナダイズド・ブラック
F:9.0×21+30(セミコンケーブ)
R:10.5×21+42(ディープコンケーブ)
タイヤ:コンチスポーツコンタクト6
F:255/30-21　R:295/25-21
チューニング
スプリング:H&R



ガツンと大胆に落とし込まれたコンケイブ形状を採用。右側用と左側用でスポークの回転方向が逆になるのも特徴。色、サイズはオーダー式



鍛造製法ならではのエッジ感、細さがスポーティなムードを確実に増幅。スポーク側面はステップ形状となるため、シンプルながら立体感大



オーダーインセット方式だから、リム深度をしっかりと確保しやすいのもポイント。装着モデルのインナーリムは、アナダイズド・ブラック

純正外径をキープしたまま無理なく21インチを奢る。

ミリ単位でのインセットオーダーやカラーリングなど、ホイールを構成する要素を自由にオーダーできることで人気を集めるハイパーフォージド。そのすべてはメイドインジャパンで、カスタムの自由度だけでなく、ホイールとしての機能性やパフォーマンスにも配慮した鍛造製法が採用されるなど、メルセデスの足元を飾るハイエンドホイールとしてもその地位を確立している名門だ。

そんなハイパーフォージドの最新作であるHF-DiCは、シンプルな2×5スポークを軸としながらも、たくましいほどのコンケイブ形状を採用。左右で回転方向をアシンメトリーにデザインした、左側専用、右側専用のディレクションスタイルとなっているのも優越で、旬のヒネリ系の中でもワンランク上の完成度、躍動感を手に入れられる作品だ。

これをS213のEクラスで、となると、最初に頭に浮かぶサイズは誰もがきっと、19〜20インチ。しかしこのクルマをよく見てほしい。なんと履かせているサイズは、インパクトあふれる21インチなのだ。

実はS213に、HF-DiCの21インチはドンピシャ。各部への干渉などもすべてクリアできていて、無理矢理履かせているわけでもなく、純正外径をキープしたままの理に適ったマッチングが実現できるのだ。ならばそこに、迷う余地はなし。躍動の最新フォージドを際立たせる意味でも、選択肢は21、一択である。